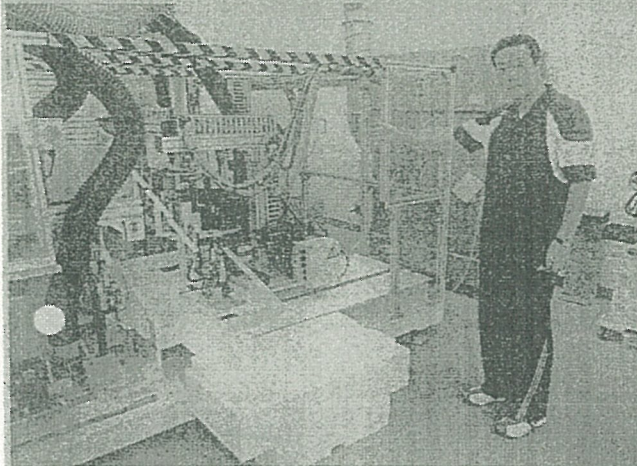


ゴルフクラブ県内生産



導入した最新のシャフト加工機など整備した生産ラインの工程を説明する
下村社長一〇日、うるま市外村

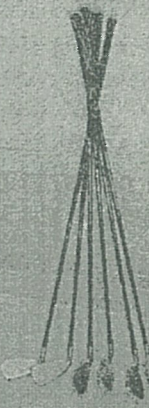
琉球新報 平成24年 8月15日

OCF、保税活用

3年後売上高10億目標

ゴルフクラブを産み立てるOCF(沖縄クラブフットウェア)の下村社長は14日までに、うるま市州崎の国際物流拠点産業集積地(旧特別自由貿易地域)内に、車の生産工場に入居し、ゴルフクラブの生産も在産管理までの一貫システムを整備した。OEM(相手先ブランド)による生産事業を展開し、1、2ライバー(ライナー)など主のクラブが対象。今後3年間で生産高10億を売上高10億円を目指す。

OCFが加古、明が立を掛け、ゴルフクラブの生産を進める。御して生産を進める。



OCFが加古、明が立を掛け、ゴルフクラブ

この本報掲載する予定だ。3年後には40、50人の採用を見込んでいる。ゴルフの中堅メーカーから集まる部品を既に確立している。工場は最新のシャフト加工機を導入し、組み立ては中国など海外から輸入し、組み立ては日本の技術で手掛ける。但し、高品質な日本製部品として売込み、別メーカーからの受注も目指す。

OCFによると、ゴルフの組み立ては各メーカーがそれぞれ生産し、手作業で加工、組み立てする業務だったが、加工装置の技術が進み、システム化や外注する傾向にあるという。

下村社長は「アジアでは日本製への評価が高い。部品は海外製でもいいが、組み立ては日本の技術力の二、三がある。沖縄はアジアに近く、アジアに展開したい。ゴルフメーカーにとっても利点が多い」と沖縄での事業展開の意義を語った。(読花史郎)